

東萩山だより

東村山市立東萩山小学校

12月号平成30年 月 日

TEL 042-391-8119

FAX 042-397-5408

学校ホームページ <http://higashimurayama.ed.jp/e09-higashihagiyama/>

東萩の校内研究（その2）

校長 伊藤 浩介

音楽会は、多くのご参観ありがとうございました。会より前の全校朝会（体育館）で、目を閉じて何が聞こえてくるか実験をしました。耳を澄ますと電気のジーという音だったり、教師の歩くこつこつという響きだったり、日頃気に留めない音を聞くことができました。数回このお話をしました。鳥のさえずりだったり、お隣の人の息遣いだったり、子どもたちは気付いてくれました。音楽会当日、緊張感を伴ったお友達の息遣いを感じながら、自分が、そしてお友達が紡ぎ出す、心の耳を澄まさなければ聞こえてこない最高の声や音を今度は感じながら、自ら考えながら「心をひとつに きれいなハーモニー」を届けてくれたと子どもたちでした。拍手です。

さて、校内研究のお話です。「主体的・対話的で深い学び」部会（道徳を切り口に）、「カリキュラム・マネジメント」部会、「社会に開かれた教育課程」部会の3班に分かれ、研究を行っているところまでお知らせしました。カリキュラム・マネジメント」部会が、特に現在各校に求められている「がん教育」「自殺予防教育」「プログラミング教育」について校内発表をしました。

「がん教育」は、がん対策基本法、都がん対策推進計画等に基づき実施しています。がんという病気について正しく理解すること、健康と命の大切さについて児童が主体的に考えられるようにすることが目標です。本校も6年生を中心に実践に入り、保健（予防法、早期治療でかなり治癒が可能なこと）、道徳（よりよく生きる喜び）、道徳（節度・節制；生活習慣や自分の生活の見直しを含む）との関連で行っています。11歳で小児がんにかかった「命をみつめて」の題材で登場する猿渡瞳さんに学び、生きていることがすでに幸せとの児童の感想が出てきたことも紹介されました。

「自殺予防教育」（この言葉は児童には直接は使わない予定ですのでご留意願います）は、学校・保護者・精神保健の専門家との、なぜこの教育が必要かとの合意形成が重要であり、適切に指導内容を吟味し、可能性のある児童が見られた場合フォローアップ体制を整えるなどの手続きを経て授業実践を行うべきとの確認を行いました。まだ授業には入っておりません。文部科学省は自殺に追い詰められる子どもの心理として・ひどい孤立感・（わたしはいいない方がの）無価値感・強い怒り・苦しみが永遠に続くという思い込み・（解決手段が他に思い浮かばない）心理的視野狭窄を挙げております。「心のSOSの出し方」については一部授業でも取り扱っておりますが、本授業実施後の児童の感想や必要な場合の面談などに留意し、実施への計画を入念に行ってまいります。

「プログラミング教育」特に「プログラミング」とは、コンピュータに人間が意図した動作を行わせる指示の集まりのことです。パソコンの操作技能も重視しますが、むしろ試行錯誤を繰り返しながらも効率的に解決する手段を考える思考力の育成が大切と考えております。実際に教員も算数の正多角形の作図で演習し、「ご飯の食べ方」の作業手順（アルゴリズム）は机上での演習を行いました。実際の指導に向けて、研修を深めてまいります。以上、特に今年研究に着手した現状をご報告しました。